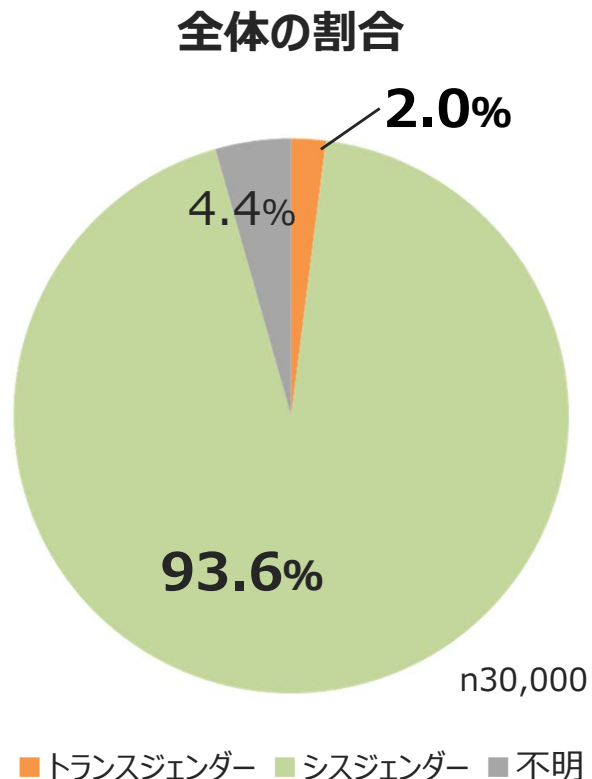


## 3. 調査結果報告

### 3-1. トランスジェンダーの割合と職場での状況

# 回答者におけるトランスジェンダーの割合

- 回答者全体（18～59歳の有職者30,000人）におけるトランスジェンダーの割合は2%であった。
- 性別違和の程度はさまざまであり、性同一性障害や性別違和等で医療機関を受診していない人も多く含まれる。



- ✓ ここでいう「トランスジェンダー」とは、「出生時の戸籍性別」と「自認する性別」の回答が一致しなかった人を指す(注)。
- ✓ 性別違和の程度により、トランスジェンダーをどう定義するかによって割合は異なる（次ページ参照）。

(注) 下記設問①と②の回答が一致しなかった人（詳細はp7-8参照）

設問①：あなたの出生時の戸籍の性別をお知らせください（ひとつだけ）

→ 回答選択肢：男性 / 女性

設問②：あなたは現在、ご自身の性別をどのように捉えていますか？（ひとつだけ）

※性格や気質・外見等ではなく、あくまでも自分の性別に対する意識として

→ 回答選択肢：男性 / どちらかといえば男性 / どちらかといえば女性 / 女性  
Xジェンダー・中性・無性など / わからない・その他 / 答えたくない

# 回答者におけるトランスジェンダーの割合：トランスジェンダー定義別

- 性自認についての自身の認識やその程度により、割合に違いがある。
- 性自認において、「Xジェンダー」や「わからない」等を除いた割合は0.95%、「どちらかといえば」を除く男性または女性を選択した回答者に限定した割合は0.35%であった。

※本調査では、1をトランスジェンダーとし、分析を行った

トランスジェンダー定義範囲	性自認の選択内容		性自認選択肢	男性	どちらかといえば男性	どちらかといえば女性	女性	Xジェンダー・中性・無性など	わからない・その他	答えたくない	割合
			出生時戸籍性別								
広義 ↕ 狭義	1	出生時の戸籍性別と異なる性別	男性	—	—注	○	○	○	○	対象外（不明）	2.00%
			女性	○	○	—注	—	○	○		
	2	どちらかといえばを含む男性または女性	男性	—	—注	○	○	—	—		0.95%
			女性	○	○	—注	—	—	—		
3	男性または女性	男性	—	—	—	○	—	—	0.35%		
		女性	○	—	—	—	—	—			

n 30,000

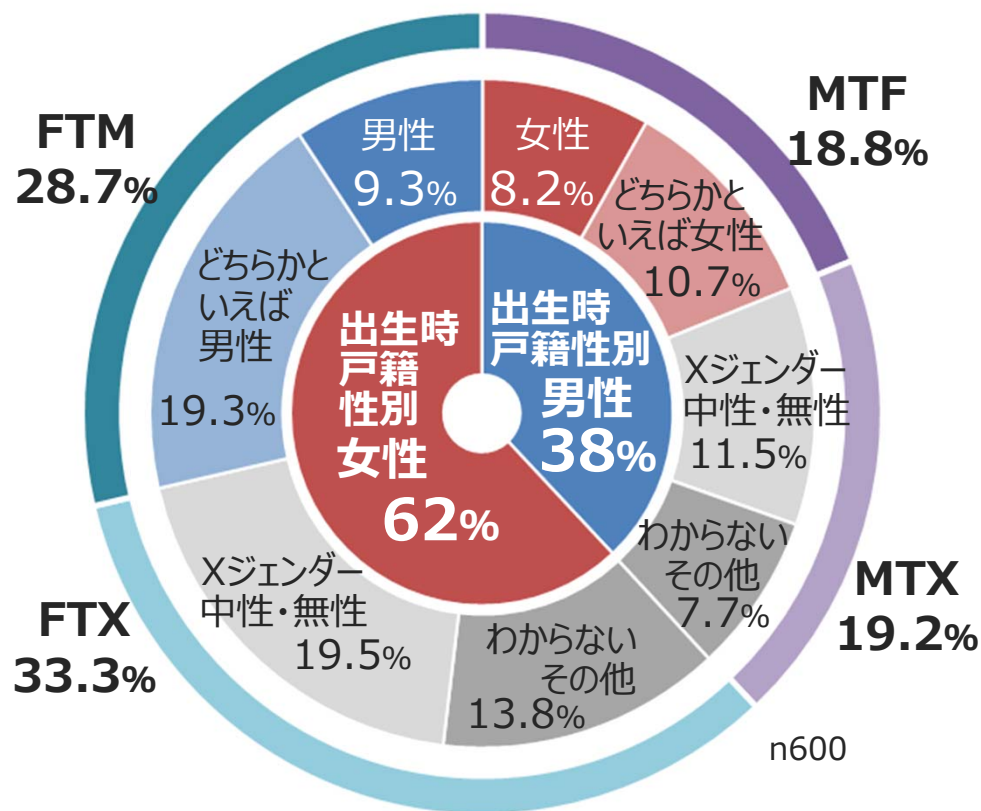
注：判別困難のため、不明とした。

p7【調査におけるジェンダー区分の定義と分類】およびp8【補足：本研究における「トランスジェンダーの定義」について】を参照

# トランスジェンダー回答者のジェンダー内訳

- トランスジェンダーのうち、出生時の戸籍性別が女性の回答者が6割を占め、性自認ではXジェンダー、わからない等の回答者が過半数を占めた。
- 出生時の戸籍性別が男性の場合は、性自認が女性またはX等の割合がほぼ同率、出生時の戸籍性別が女性の場合は、性自認が男性よりもX等の方がやや多かった。

トランスジェンダー内訳詳細



- ✓ 出生時の性別が女性のトランスジェンダーが多いという傾向は、日本の他の調査においても同様である。  
(p85【補足資料：国内調査におけるトランスジェンダーの構成比、割合について】を参照)

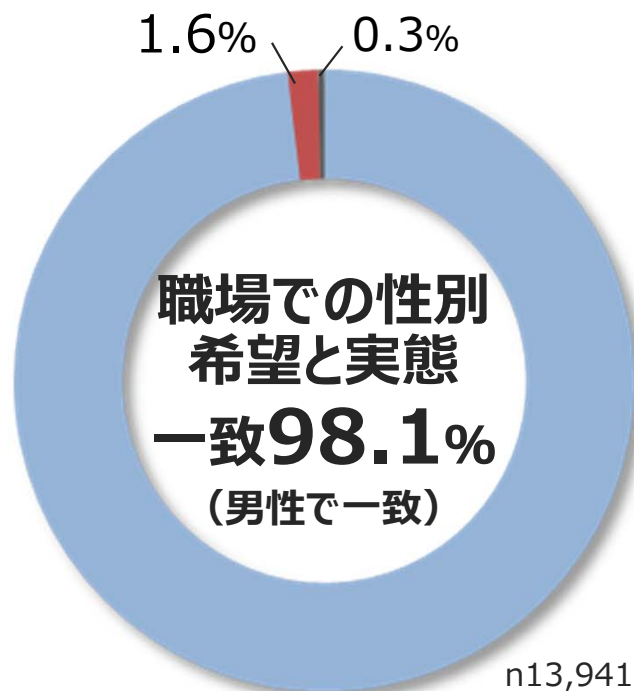
内円：出生時戸籍性別／中円：性自認／外円：トランスジェンダー4区分

# 回答者の職場での性別：希望と実態の一致度（シス男女／トランスジェンダー）

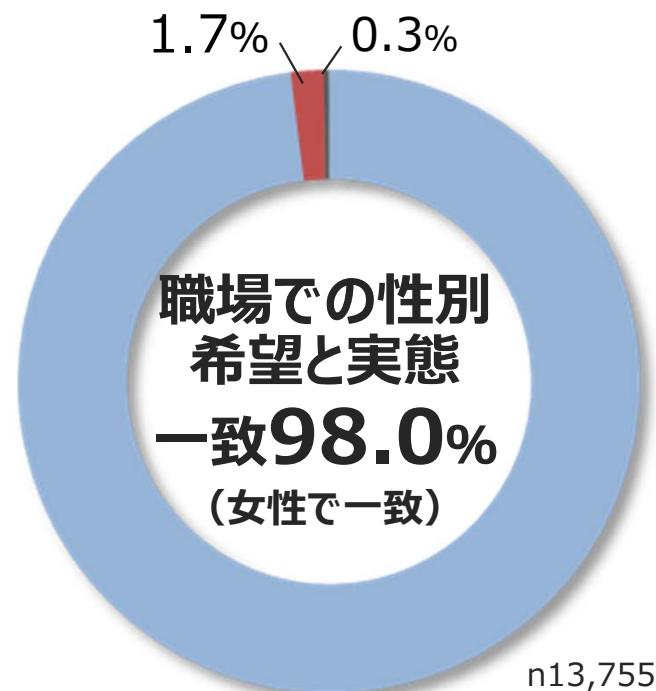
- 働きたい性別（希望）と実際に働いている性別（実態）は、シス男女がほぼ全員「一致」に対し、トランスは4割以上が「不一致」。

Q.あなたは、どの性別で働きたいと思いますか？（希望）／現在、どの性別で働いていますか？（実態）  
（日本で働いていない人、および希望と実態のいずれか、または両方で「答えたくない」と回答した人を除く）

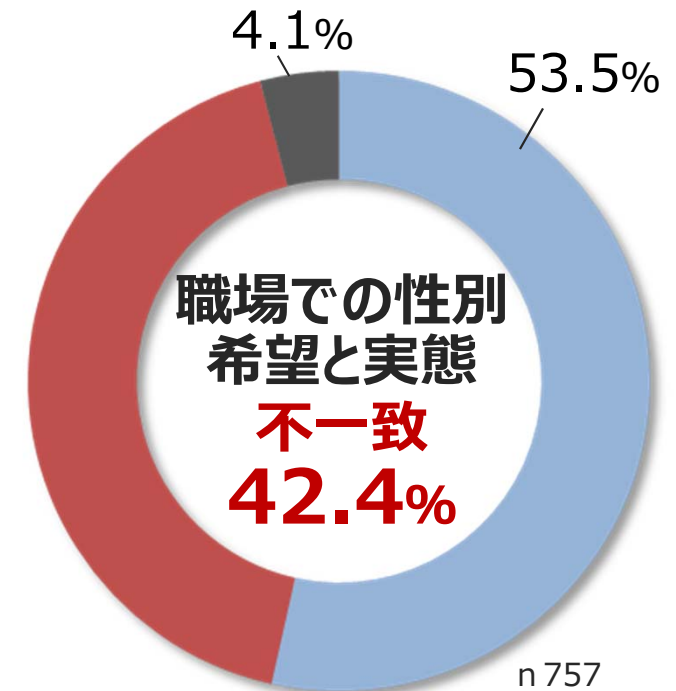
## シスジェンダー男性



## シスジェンダー女性



## トランスジェンダー

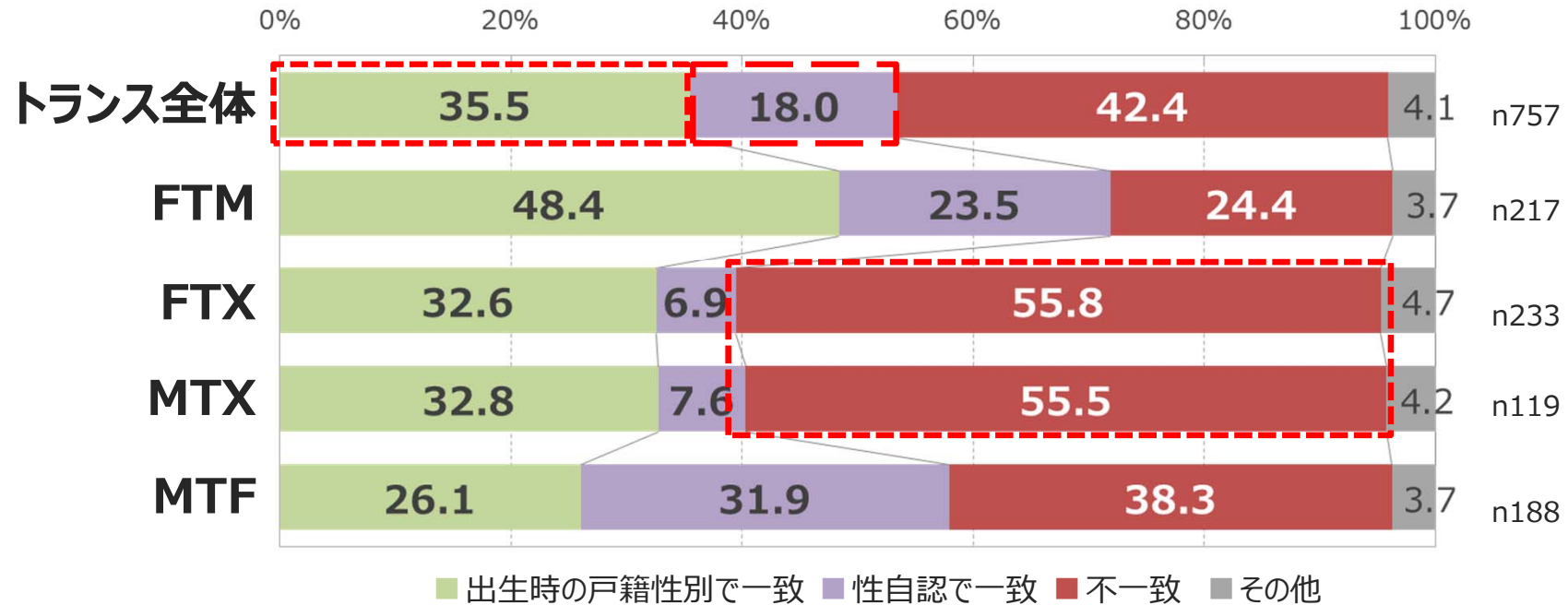


■ 一致 ■ 不一致 ■ その他

## 回答者の職場での性別：希望と実態の一致度（トランスジェンダー）

- トランスジェンダー全体では、「出生時の戸籍性別で一致」する人は3割以上、「性自認で一致」する人は2割にも満たない(注)。
- トランスジェンダーの中でも、希望と実態が「不一致」の割合はXジェンダーで特に多く、半数以上。

Q.あなたは、どの性別で働きたいと思いますか？（希望）／現在、どの性別で働いていますか？（実態）



(注) 職場での性別の希望と実態について：  
 詳細は、p18【補足：職場での性別 “希望”と“実態” の「一致度」凡例について】を参照。

- ✓ 職場で性別を移行するには、何らかのカミングアウトをし、さらにそれが受け入れられることが重要だが、困難なことも多い。そのため、職場での性別の希望と実態が「出生時の戸籍性別」で一致している人の中には、「自認する性別」で働くことをあきらめていたり、割り切ったりしている人もいられる。
- ✓ 「出生時の戸籍性別」で一致している人は、「性自認で一致」している人や「不一致」の人に比べてホルモン治療等性別違和への対応をしていない人が多い。しかし、対応していない場合でも、必ずしも性別違和が小さいわけではない。

## 補足：職場での性別 “希望”と“実態”の「一致度」凡例について

「職場での性別」における“希望”と“実態”の「一致度」について、凡例の説明を以下に示す。

➤ 下記 “希望”と“実態”の各設問に対する回答の一致状況により、分類を行った。

	設文内容	選択肢（単一回答）
希望	あなたは、どの性別で働きたいと思いますか？	男性 / 女性 / Xジェンダー・中性・無性など
実態	あなたは現在、どの性別で働いていますか？	わからない・その他 / 答えたくない

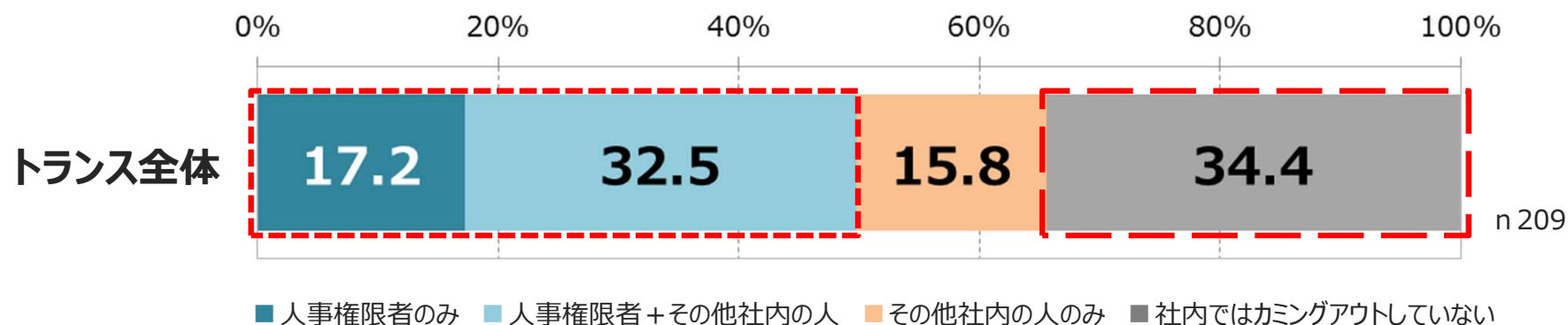
- ・出生時の戸籍性別で一致 : 希望と実態の回答が、FTM・FTXでは女性、MTX・MTFでは男性で一致している場合。
- ・性自認で一致 : 希望と実態の回答が、FTMでは男性、MTFでは女性、FTX・MTXではXジェンダー（中性・無性などを含む；以下同様）で一致している場合。
- ・不一致 : 希望と実態の回答が一致しない場合。
- ・その他 : **【トランスジェンダーの場合】**  
希望と実態の回答が、FTM・MTFではXジェンダーで一致、FTXでは男性で一致、MTXでは女性で一致している場合、および「わからない・その他」で一致している場合。  
**【シスジェンダーの場合】**  
希望と実態の回答が、シス男性では女性、Xジェンダー、「わからない・その他」のいずれかで一致している場合。シス女性では男性、Xジェンダー、「わからない・その他」、のいずれかで一致している場合。

※希望と実態いずれか、または両方で「答えたくない」と回答した人は除く

# 職場でのカミングアウト状況、およびその対象

- 職場の誰にもカミングアウトしていない人は、3割以上。
- 半数近くの人が、人事権限者にカミングアウトしている。

Q.あなたは、働いている会社・組織・職場で、トランスジェンダー等性的マイノリティであることをどなたかにカミングアウトしていますか？  
カミングアウトしている場合は、どなたにしていますか？（複数回答※）



※人事権限者：社長、役員、人事関係者、上司 / その他社内の人：同僚（先輩・後輩含む）、部下、他部署の人、その他職場内で親しい人。  
※例えば、社長、役員、人事関係者、上司のうち、少なくとも1人にカミングアウトしている場合は、「人事権限者にカミングアウトしている」として集計した。